

授業改善への道

学び続ける教師

2018.05.11

No.10

校長 渡邊 幸二

今朝、高学年担任の二人の先生(T. N先生、K. H先生)が、今日の予定黒板をじっと見つめていました。何かあるのかと思って聞いてみると、「今日もいろいろあるなあと思って……」との返答。確かに、J先生のきれいな字で黒板は埋まっていました。

世の中では「働き方改革」を、働き手である私たちに声高に押し付けてきます。働き方改革のために働かされているような気持ちにもなってしまいます。教員の現場は、確かに忙し過ぎるブラックな職場環境だと思います。私は、**教員の働き方改革の本筋は、やりがいのある仕事ができること、子どもとしっかり向き合える職場にすること**だと考えます。そうじゃない仕事があまりにも多過ぎて、ある意味自分で自分の首を絞めている面もあって、本来の仕事への着手ができない、子どもとちゃんと向き合えていないのでしょう。

表題にあるような授業改善にしっかり取り組めるような環境づくりを、浜田小学校としても考える必要があると思います。今日、ちょっとだけでしたがS. K先生と、コンクール応募のあり方や文集作りについてお話をしました。学校教育の基本はコンクールありきでも文集ありき

でもないはずです。子どものことを考えたとき、学校がどうあるべきかを真剣に考えなければならぬのかもしれないかもしれません。それがいろんな面で軋轢を生むようなことがあったら、そういう時こそ管理職の出番だと考えています。先生方の率直な思いを聞かせてください。



授業改善への道

実は、マイスターのE先生からは、どういう動きをしてもらったらいいいのか、校長としてかなり迷いがありました。担任の先生方に負担がかかり過ぎてもいけないし、かと言って遠藤先生のせっかくのお力をいただけないのはもったいないし……という迷いです。

ところが、浜田小学校の先生方は、本当に積極的にマイスターである遠藤先生を使っているなあと思います。今日のマイスターレポートNo.23には、K. R先生のこと書かれていました。校長として、これほどうれしいことはありません。ベテランの先生ですが、常に学ぼうとする姿勢で向かっているところがうれしいです。県センターでは初任研の後に「学び続ける教師」という冊子を発行していますが、大ベテランだ

ろうが、教頭だろうが、もちろん校長だろうが、やはり常に「**学び続ける教師**」でありたいと思うのです。

ちょっとベテランの領域に近づいてくると、授業改善のアドバイスにすぐカチンと来て反論したり言い訳を言ったりする先生がいます。自分の考えと違うことを言われたり、！？と思うことを指摘されたりすると、これを拒否したり、反発したり……。意にそぐわないことを指摘されると、おつけたり噴火したり、あるいは自分のやりたいことだけをしてしまうようでは、どこかの誰かさん(子ども)と同じですね。せっかくの成長のチャンスを逃していることになります。校長室だよりNo.9でも「失敗やまちがいから、人はたくさんのことを学ぶ」と言いましたが、今回の算数の授業で、K先生は謙虚に学ぶという姿を私たちに見せてくれました。E先生も「私も失敗だらけ」と吐露されているように、**失敗やうまく行かなかったこととしっかり向き合って、先生も子どもも成長していくんですね。**

いろいろご指摘をいただくと、がっかりして気持ちが萎えてしまったり「クソッ」って思ったりします。人間ですから当然です。でも、そういう指摘から謙虚に学ばないと、いろんな失敗から**謙虚に学ばないと、教師は絶対に成長しません**。経験年数にあぐらをかいているような教師にはなってほしくありません(そういう方が案外多いというお話を聞きます)。どうかE先生が忙しくて困るほど授業を見ていただきましょう。そしてアドバイスをいただきましょう。きっと遠藤先生は応えてくれます。

私もあと2年で定年ですが、最後の最後、3月31日まで「**学び続ける教師**」でいたいと思います。

